

ライオンズ、実りある奉仕の1年を ライオンズクラブ国際協会初のバーチャル大会で祝う

6月25～29日、初のバーチャル開催となった第103回年次ライオンズクラブ国際大会には、152カ国から20,000人近くのライオンズが参加しました。国際大会はLCIConとも呼ばれ、ライオンズにとって年間最大のイベントであり、過去1年間における人道奉仕の取り組みを祝う時です。

ライオンズが世界中で行った奉仕や支援により、2020年7月1日から2021年6月30日までの間に3億7,500万人以上が助けられました。さらに、[ライオンズクラブ国際財団 \(LCIF\)](#) は2020～2021年度において3,350万ドル以上の交付金を提供することで、地域そして世界のニーズに応えるライオンズの思いやりに満ちた奉仕活動を支えています。

国際大会の2カ月前、ライオンズは自分たちが知っている最善の方法、すなわち奉仕を通じてお祝いをしました。ライオンズが参加したのは、世界の食糧危機に歯止めをかけるための世界的な奉仕事業「[100万食チャレンジ](#)」。奉仕の精神により、110カ国4,700を超えるライオンズクラブが、100万食という目標をはるかに上回る830万食以上を提供し、世界の飢餓撲滅に貢献したのです。

バーチャル大会という性質上、LCIConは自宅から安全に参加でき、その興奮は多くの新会員に届きました。特に目を引いたのは世界各地から集った音楽家、芸術家、パフォーマーによるワールドクラスのエンターテインメント、ライオンズクラブが結成されている200以上の国と地域を代表するインターナショナル・パレード。魅力的なセミナー、そしてノーベル平和賞を受賞した女子教育活動家マララ・ユサフザイ氏による感動的な講演は、引き続き人道奉仕に取り組むようライオンズを奮い立たせました。

ライオンズが大会に参加する最大の理由の一つは、世界中から集うライオンズに会い、アイデアや成功事例を共に分かち合うことです。ライオンズクラブ国際協会元事務総長フランク・ムーアは次のように述べています。「地域社会を安全に保つことは私たちの最優先事項であり、このパンデミックにより、対面型の大会を世界的なバーチャルイベントに落とし込む革新的な方法を見いださなければならないという課題を突きつけられました。結果的には、私たちはつながりを保ち、協力して、世界的な奉仕の使命に取り組む方法を拓けることができたのです」

2019年に選出され、コロナ禍の期間を通じて国際会長として奉仕した、ライオンズクラブ国際協会のジュンヨル・チョイ国際会長はこう述べます。「この未曾有の一年間において世界が直面してきたあらゆる障害や困難にもかかわらず、地域社会の切実なニーズがかつてないほど高まっている中、ライオンズは安全を保ちながらその場で奉仕しています。私は国際会長として奉仕してきたことを光栄に思います。私たちが思いやりをもって奉仕し、自らの多様性を祝うときに何が起るかをライオンズは見せつけてきました」2021～2022年度、ジュンヨル・チョイ氏はLCIF理事長として奉仕します。

LCIConでは、ライオンズクラブ国際協会[第一副会長、ダグラス X. アレキサンダー](#)が新国際会長として選出されました。アレキサンダー新会長はJPモルガン・チェース銀行の元副社長で、

1984年にブルックリン・ベッドフォード・ストゥイベサント・ライオンズクラブに入会して以来、地区ガバナーや国際理事など、協会内で数多くの役職を歴任してきました。

期待をはるかに上回る奉仕を地域社会で行っているライオンズを称えると共に、チョイ・ヨウンシク教授には[ライオンズ人道支援大賞](#)を授与しました。これは国際協会の最も荣誉ある賞であり、模範的な人道奉仕活動を行っている個人または組織に対して与えられます。韓国・釜山のチョイ・ヨウンシク教授は、教育、医療革新、研究に生涯をかけて取り組み、大いなる成果を挙げています。また、ボランティア活動、そして援助を必要としている人々への支援に捧げてきました。この栄えある賞は、こうした教授の業績を称えるものです。

第103回ライオンズクラブ国際大会で祝うべきことはたくさんありました。その一方で、ライオンズは将来についても考えています。新型コロナウイルスが突きつけた課題に世界が引き続き重点的に取り組む中、ライオンズは奉仕の準備が整っています。ニーズがあるところに、ライオンズがいるのです。

写真、録画、そして第103回ライオンズクラブ国際大会の詳細については、<https://lcicon.lionsclubs.org>に掲載しています。